|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ６年 | ２ | 文字と式 | 組　　　番  名前（　　　　　　　　　　　　　） |



同じねだんのケーキ7個を４０円の箱に入れることにしました。次の問題に答えましょう。

　　①　ケーキのねだんをｘ円、合計の代金をｙ円として、ｘとｙの関係を式に表しましょう。

ｘ×7＋40＝ｙ

　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

2140

　②　ケーキのねだんが３００円のとき、合計の代金は何円になるか答えましょう。　（　　　　　　　）円

　③　合計の代金が２４２０円です。何円のケーキを買ったか答えましょう。　　　　（　　　　　　　）円

340

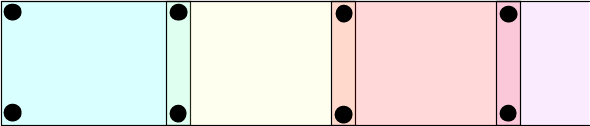
2420－40＝2380

2380÷７＝340



　まほさんとゆうさんの学級では、学習発表会ので、図工の時間にかいた絵を体育館にはることにしました。

画びょうで留める回数を少なくするために、工夫してはりたいな。

 （●は画びょうの位置）

右のように一辺を重ねてはる方法はどうかな？



いいと思います。必要な画びょうの個数はいくつかな？

　まほさんは、絵の数をa枚としたときの画びょうの個数を求める式を考えました。

私は、４×a－２×（a－１）と考えました。

例えば、３枚で考えると、３枚をそれぞれはる

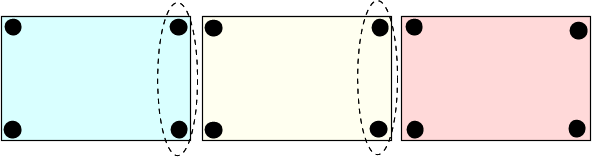
と、４×３（個）の画びょうが必要です。しかし、　の

２個は重なっているので、画びょうは不要となります。ここで、　の数は、もとの枚数３枚

より１少ないので、（３－１）と表せます。不要な画びょうは、２×（３－１）（個）です。

だから、必要な画びょうの個数は、４×３－２×（３－１）（個）です。

　実際は、a枚なので、aを使って表すと、４×a－２×（a－１）となります。

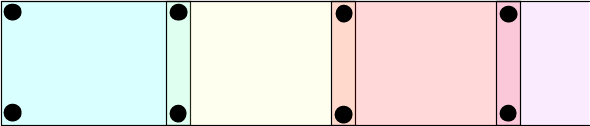


　まほさんの説明を聞いて、ゆうさんは次のように言っています。

ぼくは、２×a＋２と考えました。そのわけは、･･････

（１）ゆうさんは、どのように考えて２×a＋２の式をつくったか説明しましょう。

図を使ってもかまいません。



（例）1枚目の終わりと2枚目の始めの　 を留めるのに、そ

れぞれ2個ずつ必要です。ａ枚目の終わりを留めるまで

に、２×ａ（個）が必要です

　ここで、１枚目の始めの２個をたさないといけないので、２×ａ＋２となります。

（２）画びょうの個数が９８個のとき、何枚の絵をはることができるか答えましょう。

２×ａ＋２＝９８だから、

９８－２＝９６

９６÷２＝４８

４８

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　　　）枚